



豪州準備銀行と豪州政府の協調緩和策の公算高まる

- RBAは政策金利を0.50%へ0.25%引き下げ。RBAは新型コロナウイルスへの対応として、景気下支えのため利下げを決定。
- RBAは「追加の金融緩和の用意がある」と表明。当面の焦点は1-3月の豪州景気の動向(マイナス成長の可能性)。
- モリソン政権はRBAと連携した追加の財政刺激策を実施の方針。豪州政府は財政黒字化よりも景気対策を優先。
- 主要国の協調金融緩和への期待から豪州株に反転の兆し。豪ドル相場もRBAの利下げ決定を好感する反応示す。

RBAは景気下支えのため0.25%の利下げ決定

豪州準備銀行(RBA)は3月3日、政策金利を0.50%へ0.25%引き下げる決定を下しました(図1)。

RBAは声明文において、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大への対応策として、景気下支えのため利下げを決定したと表明しました。

RBAは新型コロナウイルスの豪州景気への影響に懸念

今回の声明文でのRBAの景気判断では、新型コロナウイルスの問題が短期的な世界経済の見通しを曇らせていると指摘すると同時に、教育・観光産業を中心に豪州経済にも大きな影響を及ぼしつつあるとの見方が示されました。

また、新型コロナウイルスの世界的感染拡大は、足元では豪州の消費者心理の悪化を通じて個人消費への下押し圧力にもなりはじめている模様です(図2)。

RBAは追加の金融緩和の用意があると示唆

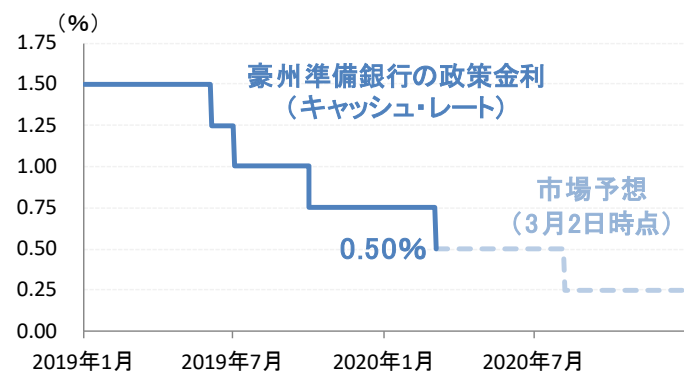
RBAは先行きの金融政策に関して、「景気支援のため追加の金融緩和の用意がある」との方針を示しています。直近の市場予想では、RBAの政策金利は2020年7-9月期にも0.25%へ引き下げられると見込まれています。

当面の焦点は1-3月期の豪州景気の動向

今後、RBAが追加利下げに踏み切るかどうかの焦点は、2020年1-3月期の豪州景気の行方に集まりそうです。

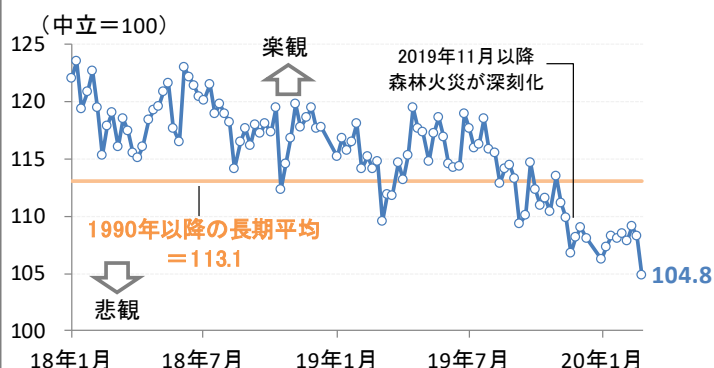
当初、1月時点の市場予想では豪州の実質GDP成長率は2020年から2021年にかけて緩やかな持ち直しが見込まれていました。しかし、直近の市場予想では、森林火災や新型コロナウイルスの影響から2020年1-3月期の実質GDPは前期比0.0%へ減速が予想されており、マイナス成長に転じる可能性への警戒が増しつつあります(図3)。

図1: 豪州準備銀行の政策金利の推移



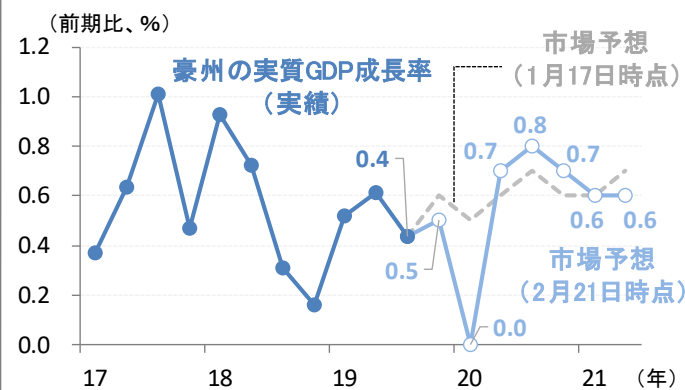
(出所) 豪州準備銀行(RBA) (期間) 2019年1月1日~2020年3月3日

図2: 豪州の消費者信頼感指数(週次)



(出所) ANZ・ロイモーガン (期間) 2018年1月7日~2020年3月1日

図3: 豪州の実質GDP成長率の実績と市場予想



(出所) 豪州政府統計局(ABS)、ブルームバーグ (期間) 2017年1Q~2019年3Q(実績)

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。●当資料に記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。

